

# 令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

### 1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

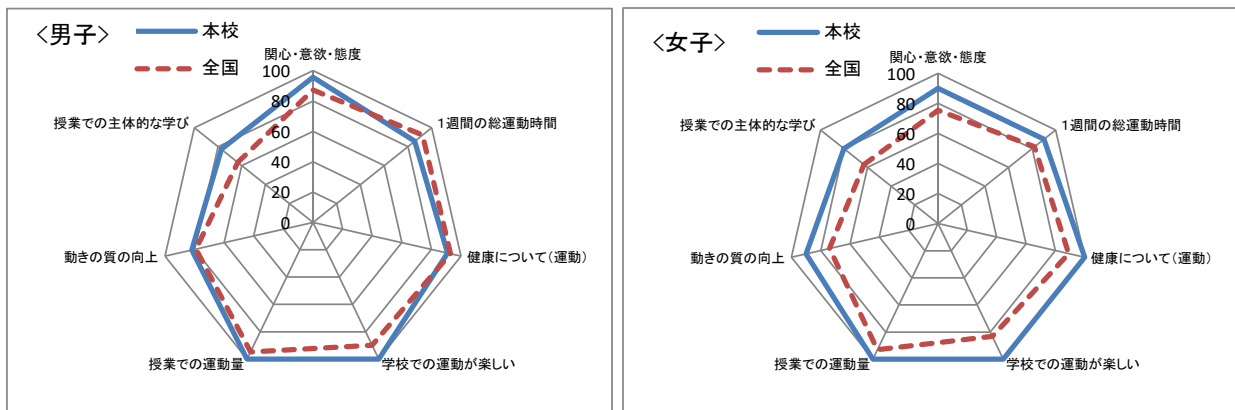
### 2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

授業の始めの準備運動の後に補強運動や3分間走を入れることで運動量を確保することが出来た。また、一クラスの人数が少なく場所も確保できることが「授業での運動量」の満足度につながったようだ。一方で「主体的な学び」や「動きの質の向上」の値は全国平均を大きく上回っているものの低い値である。授業の中で自分自身で課題を見つけ自分の動きを客観的に見たり仲間と教えあったりすることによって分析し「できた」や「上手くできた」体験を多くすることが必要である。

### 4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

全学年で共通して準備体操後の補強運動、時間走を継続して行っていく。しかし、学年や自身の体力によって回数や時間を変更するなどして個の体力に合わせて活動するような工夫を行っていく必要がある。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

体育大会でクラス対抗ではあるが、性別や学年をこえた統一種目を取り入れ活動を行う。